

公益財団法人 かわさき市民しきん

2020 年度 事業報告書

1. 「かわさき市民しきん」の目的

当財団は、市民や企業の志のある寄付を募り、社会の課題解決や地域の活性化などの公益活動を応援し、川崎を誰もが暮らしやすく、人や命にやさしい地域にすることを目的とする。

2. 「かわさき市民しきん」が目指すもの ～「かわさき市民しきん」が目指す未来の川崎～

- ・寄付することが“自然”、“かっこいい”と思う市民が増える。
- ・市民自らの手で、川崎というコミュニティを豊かで快適にしていこうという気持ちが集う。
- ・コミュニティのなかで市民の「お金」がスムーズに循環し、自立して持続できる社会となる。
- ・寄付し、寄付されることで、市民の生活や気持ち豊かで、快適になることを市民自身が実感できる。
- ・市民が積極的にかかわり、ワクワクして、サポートしたいと感じるプロジェクトに「お金」が集まる。

3. 2020 年度を振り返って

2020 年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年でした。公益財団法人として 3 年目、財団の設立からは 6 年目の事業となりました。

[事業支援しきんあとおし]では、より寄付しやすく、応募しやすい新しいウェブサイト「かわファン」の構築を行い、そのための応援寄付を募集し、2020 年 9 月から運用をスタートしました。

[事業支援しきんあとおし 2020] は、6 団体から応募があり、5 団体が寄付募集を終了し、1 団体は 2021 年に寄付募集を終了予定です。これまでのあとおしと比較して多くの寄付金が集まりました。

[事業支援しきんあとおし 2019]の 3 事業については、2020 年度に助成事業が実施されました。

[意思実現しきん いしずえ]については、困難な問題を抱える女性へのサポート事業として、5 団体に対して助成事業を実施しました。事業実施については 2020 年度に実施できた事業もありますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業実施を 2021 年度に実施する予定のものもあります。

また、2 月には市民から、親の遺産の 400 万円を生活困窮者をサポートしている団体へ助成してほしいという寄付があり、それは 2021 年度に実施予定です。

川崎市から受託を受けているプロボノ事業については、「川崎プロボノ部 2020」をオンラインにて運営し、コロナ禍においても、多くの方が地域の活動にかかわる機会を提供することができました。

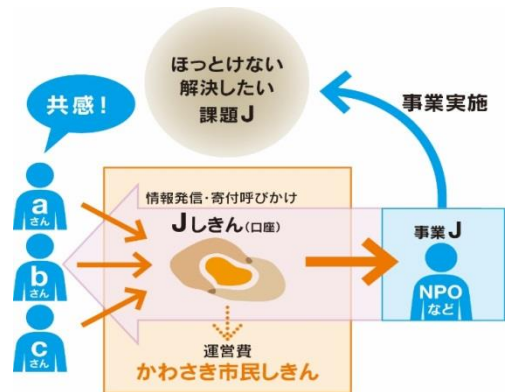
生活様式や社会の在り方が大きく変わった一年でしたが、自分の住む地域に関心が高まったようにも思います。自分たちの地域を自分たちでよくしていく、それを寄付で応援する組織であることを改めて感じた一年でした。

4. かわさき市民しきんの主な事業報告

(1) 助成プログラムの実施

① 事業支援しきん あとおし

「川崎で今、何が必要か?」「川崎の課題は何か?」。実際に川崎市内で活動する NPO などから、今必要とされている事業を募集し、選考します。そして、当財団を通して、それを広く市民に訴えその解決策(=NPO などが行う取り組み)への寄付金を事業ごとに集めます。寄付者は支援したい事業を選んで寄付をします。集まった寄付金から運営経費(寄付金の 15%)及びクレジット手数料を引き、それぞれの事業に助成します。



◆2020 年度の「あとおし」実施報告

財団設立時に実施した「あとおし」は、年 1 回だけ期間を決め、対象事業を募集し、選考し、期間を決めて寄付募集し助成するというスケジュールで 2019 年度まで行ってきました。

応募する側にとっては、いつでも気軽に応募できるように、寄付する側にとっても、いつでも簡単に寄付できるように、という目的で見直しをした結果、2020 年 9 月に地域限定クラウドファンディング「かわファン」サイトを立ち上げました。これも、地域の企業や市民から「クラファンサイト立ち上げ応援寄付」を募り、129 万円の寄付が集まり、行うことができました。

「あとおし」の基本的な仕組みは変えずに、事業の応募はいつでも可能、寄付募集期間と寄付募集の方法(All or Nothing か All in)は応募団体が選択できる、という応募団体の自由度が増して、応募しやすくなるのが、「あとおし」事業の活性化につながると考えました。

2020 年 9 月オンラインの「かわファン」オープニング説明会を開催し、9 月から募集を開始しました。

5 団体が今年度中に寄付募集終了し、100 万円を超す寄付が集まった事業が 2 つありました。これまでの「あとおし」の平均値と比べると今年の寄付金は約 3 倍になりました。それに加えて、サイト立ち上げ寄付金も 100 万円を超え、当財団の柱の事業の見直しが成果を出したと言えます。

◆2020 年度に応募し、寄付募集が終了した助成対象事業

- ① さまざまな人が住む武蔵新城にみんなのはたらく場をつくります！

実施団体：新城 WORK 寄付募集期間：10 月 20 日～12 月 20 日 寄付募集方法：All or Nothing
目標金額：100 万円 寄付金総額：1,264,000 円 寄付者数：82 名 助成金：1,009,438 円

- ② 川崎大戸チビハン OG に引退試合をプレゼントしたい！

実施団体：大戸チビハン実行委員会 寄付募集期間：11 月 1 日～12 月 20 日
寄付募集方法：All in 目標金額：50 万円 寄付金総額：165,000 円 寄付者数：16 名
助成金：131,560 円

- ③ 2021 年へ！「かつてにおもてなし大作戦！」グッズを作りたい！

実施団体：かつてにおもてなしグッズ作成委員会 寄付募集期間：12 月 4 日～2 月 14 日
寄付募集方法：All or Nothing 目標金額：30 万円 寄付金総額：30 万円 寄付者数：48 名
助成金：237,928 円

④ nokutica 3周年事業！新たな交流を生む屋外スペースを

実施団体：nokutica 寄付募集期間：12月25日～1月31日 寄付募集方法：All or Nothing
目標金額：80万円 寄付金総額：1,041,000円 寄付者数：116名 助成金：828,746円

⑤川崎の福祉施設から恩返し 十三浜わかめレシピ本プロジェクト

実施団体：社会福祉法人はぐるまの会 寄付募集期間：1月9日～2月28日
寄付募集方法：All in 目標金額：30万円 寄付金総額：117,000円
寄付者数：16名 助成金：93,083円

⑥地域のキーパーソンを紹介する『ソーシャルタウンガイド』

実施団体：norman.jp and company 寄付募集期間：3月1日～4月30日
寄付募集方法：All in 目標金額：20万円 2021年度の決済になります。

◆「かわファン」活用オンライン説明会を開催 参加者：約50人

2021年2月28日「かわファン」の活用説明会を実施しました。申請のやり方や活用ポイントなどをオンラインでスライドを中心に解説。これまでに達成した2件のプロジェクトの起案者に利用した感想や達成のコツなどもお聞きし、これから実際にスタートするnorman.jpさんのプロジェクト、地域のキーパーソンを紹介する『ソーシャルタウンガイド』の公開説明も行いました。

◆「あとおし2019」3事業の中間実施報告について

「あとおし2019」の助成対象事業は以下の3つです。2020年度に事業実施をすることになっていましたので、中間視察として9月から11月の間に訪問しました。コロナ禍で、活動が少し遅れ気味のところもありましたが、いずれの団体も、事業を計画にそって実施し、5月に提出される報告書で最終確認となり、その結果は当財団HPへ掲載します。

(イ) つながりを育む居場所・地域カフェをふやしたい！ 「交流会」と「ポスター展」の開催

実施団体：多摩区認知症カフェ・地域カフェ 交流連絡会

(ロ) 地元飲食店のネットワークでつくる 非常時に役立つ「防災レシピハンドブック」

実施団体：まごころキッチンプロジェクト

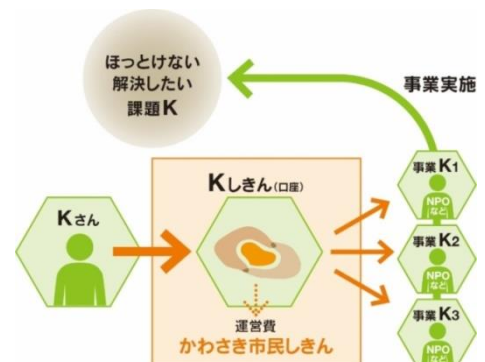
(ハ) 子育てママやパパの負担を減らしたい！ デジタル化とメディアでPTAをハッピーに

実施団体：NPO法人ハピタ

②意思実現しきん いしづえ

寄付者の思いが込められた“しきん”を当財団がお預かりし、その思いの実現をめざす活動などへ助成をするプログラムです。思いを形にして残すことができたり、故人の思いを後世に伝えることもできます。名称は自由に付けることができ、助成対象やテーマを指定することができます。事例として以下を参照。

- ・創業などの周年事業として、地域社会への恩返しを目的とした助成
- ・家族のご逝去にあたり、その方の志を残すための助成



◆2020年度の「いしずえ」の実施報告

DV被害者のシェルターを運営していたNPO法人「グループビボ」が解散にするにあたり、その残余資金を2019年9月に当財団に寄付していただきました。グループビボの長年の活動にふさわしい助成プログラムとするため「困難な問題を抱える女性へのサポート事業」を行っている団体に対する助成プログラムを組成することとしました。2019年度は準備期間とし、2020年度に助成事業を実施することとしました。

2020年5月 事業募集（5団体が応募）

6月 選考委員会（書類審査）後に理事会にて助成先決定（助成先として5団体を決定）
5団体に助成決定の通知送付

助成先団体及び実施事業

- ① 横浜YWCA（横浜市）一人芝居「電話の女」の公演
- ② レジリエンス（東京都） 支援者向けファシリテーター養成講座
- ③ エンパワメントかながわ（横浜市） 中学校・高校などでのデートDV予防啓発事業
- ④ 花みずき（川崎市） 女性相談事業の拡充
- ⑤ パソコンサポートまうすなび（川崎市） 女性への無料パソコン教室の開催

※事業実施期間はコロナ禍の影響を考慮して2020年度～2021年度としました。

レジリエンスは事業終了。エンパワメントかながわ、花みずき、パソコンサポートまうすなびの3団体は事業継続中。横浜YWCAは2021年度実施に向けて準備中です。

以上の通り2020年度の助成プログラムは予定どおり実施することができました。

③課題設定しきん たくわえ

川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを設定し、その活動について寄付を集めます。集まった寄付を、そのテーマで活動するNPOなどが行う活動に助成します。

2020年度は、子ども食堂基金を「かわさきっ子すくすく基金」とより広く子どもを対象とした基金に改め、寄付を募っています。2021年度の助成事業として実施する予定です。

また、新たに「かわさき災害対策基金」を立ち上げ、災害時に寄付を募り、素早い支援を行うための基金として設置しました。

2020年度実績

「かわさきっ子すくすく基金」 40,000円 （2019年度の期末残高と合計で77,475円）

「かわさき災害対策基金」 11,000円

④寄付文化創造に向けた講座・セミナーの開催

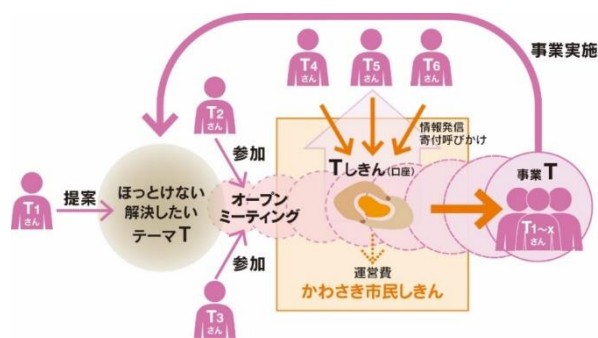
コロナウィルスの感染防止の影響もあり、今年度は広く地域の課題解決に取り組む個人や団体に向けてのセミナーは実施しませんでした。

(2) 調査研究事業 共感共鳴しきん えんたく

独自のテーマ設定で川崎のさまざまな活動を調査・研究するプログラムです。参加者は「こども」「環境」「介護」など、川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを当財団とともに提案し、運営に関わることができます。提案者は助成に必要な資金を当財団と一緒に集め、主体的にプログラムを展開します。

◆2020年度「えんたく」の実施報告

2020年度は事業実施しませんでした。



(3) 相談・支援事業

①川崎プロボノ部 2020 の実施

2016年度に川崎市が行うプロボノ事業のノウハウ移転先として支援を受け、2017年度はプロボノチャレンジ KAWASAKI2017 として実施したものを、引き続き、2020年度は川崎プロボノ部として川崎市の委託を受け、実施しました。市民が主体となって参加するプロボノコミュニティの構築を目指して、実施しました。コロナウィルスの感染防止のため、基本的にオンラインで実施しました。

◆実施内容

オンラインセミナー・説明会の開催：5回

支援団体：8団体、参加プロボノワーカー：37名、運営委員 7名

プログラム：オリエンテーション、キックオフミーティング、成果提案、振り返り会、報告会

◆成果

主な成果としては、以下の3点となります。

- ・多様な支援先団体へのプロボノプロジェクトでの支援の実施
- ・市民が主体のプロボノコミュニティの構築
- ・コロナ禍におけるプロボノプロジェクトの実施

コロナウィルスの感染防止のため、ほとんどのプログラムをオンラインで実施し、多様な支援先へのプロボノプロジェクトでの支援が実施できました。その中で、プログラムの企画運営も含めて運営委員を中心とした運営を実施することができ、川崎でのプロボノコミュニティの構築をしていくことができました。

②川崎住宅奨学金事業への支援(対象川崎市内の高校2、3年生)

一般財団法人川崎住宅奨学会の奨学金事業について、学校への案内や応募者の取りまとめなどの支援を行いました。2020年度は4年目となります。継続10名新規10名合計20名の奨学生が選定されました。2021年度の募集開始についても、案内の送付などを行いました。

(4)その他の事業

①寄付者獲得プロジェクト

「あとおし」に応募する側にとっては、いつでも気軽に応募できるように、寄付する側にとっても、いつでも簡単に寄付できるように、という目的で2020年9月に地域限定クラウドファンディング「かわファン」サイトを立ち上げました。かわさき市民しきんが集めた寄付金の使われ方が広く見えるよう、寄付の「見える化」が少し進みました。市民しきんのHPでも賛助会費や応援寄付など、寄付募集のツールとして、クレジット決済のサイトが活用されています。新しく「かわファン」サイトが立ち上がったので、これまでのHPのリニューアルについては、来年度検討の予定です。

②寄付者定着プロジェクト

ウェブサイトやメールマガジンを通じて、活動の報告を行いました。

メールマガジンの発行 8回 ニュースの発行 0回

(5)賛助会員制度と応援寄付

当財団の事業を実施するために、趣旨に賛同する企業や個人を対象に、賛助会員制度を設けています。このような寄付を促進し、社会の課題解決や地域の活性化をしていく公益財団法人「かわさき市民しきん」のプログラム自体に賛同し、応援してくださる方を対象とします。

①パートナー賛助会員 年会費 50万円

企業にとっても、CSR活動や人材育成の活性化につながるよう、プログラムに様々な形で参加できる制度。

企業の人材育成＝プロボノ参加（若手、シニア社員）、協働CSRマーケティングなどの価値を、地域課題解決に取り組むNPOなどへの支援を行う中で一緒に共創します。

②賛助会員 企業・団体 1口1万円、5口以上で賛助会員証を発行。

③個人会員 1口5千円

④応援寄付 どなたでも、いくらでも当財団の応援への寄付です。

今年度は応援寄付の中に「クラファンサイト立ち上げ応援寄付」を募集しました。企業は1口5万円、個人は1口1万円

◆2020年度実績

賛助会員 団体4/8口、個人33名/44口（昨年度2団体、個人26名）

賛助会費300,000円（昨年度210,000円）

応援寄付/「クラファンサイト立ち上げ」：企業18/19口、個人21名/34口 合計129万円

一般の応援寄付：個人7名 1,042,958円（昨年度44,844円）

今年度は「クラファンサイト立ち上げ応援寄付」、市民からの親の遺産での応援寄付など大口の寄付が集まりました。

理事、評議員なども積極的に会員を勧誘する取り組みが望まれます。